

TAKENAGA Tomohiro

竹永 知弘

専任講師

研 究 業 績

2025年4月1日現在

著書・論文等の区分	著書・論文等の名称、発行所・発表雑誌・学会等の名称、共著の場合の編者・著者名、該当頁数	発行・発表年月
編著書（共）	後藤明生を読む会編『後藤明生を読む』、学術研究出版	2024年3月
著書（共）	秋山駿・原善・原田桂編『三浦哲郎全作品研究事典』、鼎書房、担当範囲：「おりえんたる・ぱらだいす」「シュークリーム」「鼠小僧」「野の祭」項	2020年8月
著書（共）	『「小説家」の二〇年「小説」の一〇〇〇年 ササキアツシによるフルカワヒデオ』、Pヴァイン、担当範囲：作品解説『13』『聖家族』	2018年9月
著書（共）	『エクリヲ8』エクリヲ編集部、担当範囲：「言葉の技術（techno-logy）としてのSF」	2018年5月
論文（単）	「無用の告白——古井由吉『神秘の人びと』論」、『昭和文学研究』第90集	2025年3月
論文（単）	「身体と衣装——季刊同人誌『文体』（1977～1980）から考える「文体」」、『昭和文学研究』第86集、46～61頁	2023年3月
論文（単）	「「内向の世代」以前——『新日本文学』の黒井千次」『国文論叢』第59号、83～100頁	2022年3月
論文（単）	「物語の氾濫——古井由吉「聖」論」、『国文論叢』第53号、56～72頁	2018年3月
論文（単）	「文体への努力——季刊同人誌『文体』（一九七七～一九八〇）解題と総目次」、『国文学研究ノート』第55号、57～79頁	2016年3月
論文（単）	「翻訳という小説作法——古井由吉「杏子」とロベルト・ムージル「愛の完成」「静かなヴェロニカの誘惑」」、『国文学研究ノート』第54号、45～62頁	2015年3月
その他（単）	「藤井義允著『擬人化する人間——脱人間主義的文学プログラム』「人擬き」のための文芸評論「新しい人間像」＝「新しい文学像」を提示する」、『週刊読書人』	2025年3月21日
その他（単）	「第172回芥川賞候補5作品を徹底解説 安堂ホセは3度目、	2025年1月

	乗代雄介は5度目のノミネート どの作品が受賞なるか」、 『Real Sound ブック』	14日
その他（単）	「多彩なテキストのサンプリングで描く、沖縄という土地の 走馬灯 豊永浩平『月ぬ走いや、馬ぬ走い』レビュー」、『Real Sound ブック』	2024年10 月19日
その他（単）	「もっと「おもしろい」人間として生きろ——町屋良平『私 の小説』に纏わる拭いようのない疚しさ」、『Real Sound ブ ック』	2024年9月 23日
その他（単）	「古川日出男の複雑怪奇な「パンデミック」論 『京都という 劇場で、パンデミックというオペラを観る』評」、『Real Sound ブック』	2024年8月 8日
その他（単）	「第171回芥川賞候補5作品を徹底解説 向坂くじら「いなく なくならなくならないで」など個性的な作品並ぶ」、『Real Sound ブック』	2024年7月 16日
その他（単）	「話が飛ぶ人は体内に複数の時間が流れている——ADHD 当事 者の作家が描くエッセイ『あらゆることは今起こる』」、『Real Sound ブック』	2024年6月 29日
その他（単）	「高橋源一郎が示す、「間違った歴史」との接し方 6年ぶり の大長編擬似歴史小説『DJ ヒロヒト』を読む」、『Real Sound ブック』	2024年5月 21日
その他（単）	「もしも開高健の時代に SNS があったなら？ 宮内悠介『国歌 を作った男』が描く、ノスタルジーとテクノロジー」、『Real Sound ブック』	2024年4月 4日
その他（単）	「「猿」と「人間」の異種交流譚——小砂川チトの奇妙な小 説『猿の戴冠式』を読む」、『Real Sound ブック』	2024年3月 6日
その他（単）	「小説をわかってから書くという発想が間違っている——山 下澄人『FICTION』現在形の試み」、『Real Sound ブック』	2024年1月 31日
その他（単）	「第170回芥川賞候補5作品を徹底解説 2度目のノミネート が多い中での注目作は？」、『Real Sound ブック』	2024年1月 16日
その他（単）	「小説家・小川哲が問う「嘘の功罪」とは『君が手にするは ずだった黄金について』書評」、『Real Sound ブック』	2023年12 月8日
その他（単）	「溶接工からジュニアアイドルまで、多様なテーマ並ぶ第169 回芥川賞 候補5作品を徹底解説」、『Real Sound ブック』	2023年7月 18日
その他（単）	「第168回芥川賞はどの作品が受賞してもおかしくない力作 揃い 候補5作品を徹底解説」、『Real Sound ブック』	2023年1月 18日
その他（単）	「第167回芥川賞は女性作家の力作揃い 候補5作品を徹底解 説」、『Real Sound ブック』	2022年7月 19日

その他（単）	「第166回芥川賞は混戦の予感？ ボディビル小説から古書にまつわる物語まで候補5作品を徹底解説」、『Real Sound ブック』	2022年1月17日
その他（単）	石沢麻依 『貝に続く場所にて』 書評、『共同通信』	2021年8月
その他（単）	「千葉雅也、李琴峰らがノミネート「第165回 芥川賞」はどうなる？ 候補作を徹底解説」、『Real Sound ブック』	2021年7月14日
その他（単）	「季刊ブックレビュー：予兆を描くゆえの必然 『カード師』中村文則」、『小説トリッパー』122～123頁	2021年6月
その他（単）	「宇佐見りん、尾崎世界観らがノミネート 1月20日発表「第164回芥川賞」はどうなる？」、『Real Sound ブック』	2021年1月
その他（単）	「文芸誌が向き合った〈2020〉 小説に取り込まれる世界の変化」、『Real Sound ブック』	2021年1月1日
その他（単）	「第163回芥川賞はどうなる？ ノミネート5作品を徹底読解」、『Real Sound ブック』	2020年7月11日
その他（単）	「古井由吉は日本文学に何を遺したのか 82年の生涯を新鋭日本現代文学研究者が説く」、『Real Sound ブック』	2020年3月10日
その他（単）	「書評「幽霊は私を見ている」——藤野可織『私は幽霊を見ない』」、『クライテリア』第4号	2019年11月
その他（単）	「藤村記念館——文学者の幽霊になる」、『ロカスト／LOCUST』第3号	2019年11月
その他（単）	「筒井康隆の神話——言葉、超能力者（エスパー）、GOD」、『エクリヲ／ecrit-o』第8号、32～49頁 招待有り	2018年5月
その他（単）	「小特集によせて——五〇年目の「内向の世代」」、『国文論叢』第53号、38～41頁	2018年3月
その他（単）	「写真の原点と、原点の写真について——写真展『Robert Frank: Books and Films, 1947-2017 in Kobe』によせて」、「Robert Frank: Books and Films, 1947-2017 in Kobe」公式サイト	2017年9月
その他（単）	「編集者の発見まで—松波太郎『月刊「小説」』論」、『エクリヲ／ecrit-o』Web	2017年3月
その他（共）	乾口達司・来多頓平・小林幹也・竹永知弘「[共同討議]『挟み撃ち』をめぐる」、『後藤明生を読む』、学術研究出版	2024年3月
その他（共）	[対談構成] 柳美里・飴屋法水・東浩紀「生きることとつくること」、東浩紀『新対話篇』、ゲンロン叢書	2020年5月
その他（共）	[対談構成] 高橋源一郎・東浩紀「歴史は家である」、『ゲンロン10』、株式会社ゲンロン	2019年9月

その他（共）	[対談構成] 円城塔×佐々木敦「『エピローグ』と『プロローグ』のあいだ—世界・SF・私小説」（前編・後編）、『エクリヲ／ecrit-o』Web	2018年7月
その他（共）	[A to Z SF キーワード集作成] 担当項目：「F 公式」（夏目漱石『文学論』+山本貴光『文学問題（F+f）+』）・「J 日本古典」（ジョージ・ルーカス『スター・ウォーズ エピソードV／帝国の逆襲』）・「I アイドル」（松浦理英子『最愛の子ども』+草野原々『最後にして最初のアイドル』）・「P パラフィクション」（佐々木敦『あなたは今、この文章を読んでいる。』）・「Q キュー」（上田岳弘『キュー』）・「W 書くこと」（円城塔『これはペンです』）、『エクリヲ／ecrit-o』第8号、76～103頁	2018年5月
口頭発表（単）	「古井由吉『神秘の人びと』における「神秘主義」受容」、2019年度日本近代文学会関西支部秋季大会、於神戸大学	2019年11月9日
口頭発表（単）	「平成文学史は（不）可能か?」、神戸大学・北京外国語大学第4回国際共同研究拠点シンポジウム、於神戸大学	2019年7月6日
口頭発表（単）	「『新日本文学』の黒井千次——「組織の人間」の文学」、日本文学協会第37回大会、於新潟大学	2017年7月2日
口頭発表（単）	「物語の氾濫——古井由吉「聖」について」、神戸大学国語国文学会研究部会、於神戸大学	2016年8月20日
口頭発表（単）	「虚構の故郷——後藤明生における〈朝鮮・永興〉の記憶」、北京外国語大学・神戸大学国際共同拠点シンポジウム、於北京外国語大学	2016年6月19日